

「神の憐れみを求める」

実のところ、私たちが動きを始めたのは一人ひとりがラザロのように「出て来なさい」という声を聞いたからであった。未だに死んだままで神の慈しみの力を知らない人のことを思うと、本当に悲しくなる。あなたの聖なる喜びを新たにしなさい。キリストから離れているがために滅びる人に対して、主と共に復活した人が立ち上がるからである。
(鍛476)

12月4日

靈魂の敵のそそのかしについて考えたのはよかったと思います。そのそそのかしとは乱れた官能や輕率さ・神に反抗する理性の狂い・神や人間への愛を冷ます尊大な思い上がりなどです。こういう心の状態はすべて明らかな妨げであり、その攪乱力は決して小さくありません。そのため典礼は神の慈しみを懇願するのです。「主よ、わたしの魂はあなたを仰ぎ望み、わたしの神よ、あなたに依り頼みます。どうか、わたしが恥を受けることのないように、敵が誇ることのないようにしてください。あなたに望みをおく者はだれも、決して恥を受けることはありません。いたずらに人を欺く者が恥を受けるのです」（詩篇24・1-3）と、入祭唱で唱えました。奉獻の祈りでも、「主によりたのむ者は、はずかしめ

られることがない」と、繰り返している通りです。

救いの時が近づいている今日、聖パウロの次の言葉を聞くと大いに慰めを受けます。「救い主である神の慈しみと、人間に対する愛とが現れたときに、神は、わたしたちが行った義の業によってではなく、ご自分の憐れみによって、わたしたちを救ってくださいました」（テトス3・4-5）。

聖書に目を通せば、神の憐れみの顕れを至るところで見つけることができるでしょう。神の「慈しみに満ち」（詩篇32・5）、「すべての子の上にひろがる」（シラ18・12）。「主に信頼する者は慈しみに囲まれ」（詩篇31・10）、主はわたしに「先立って進まれ」（詩篇58・11）、「主の使いはその周りに陣を敷き（…）守り助けてくださ」（詩篇35・8）る。「わたしを超えて力

強い」（詩篇116・2）。神は慈しみ深い父として配慮してくださり、慈しみ深く（…）わたしを御心に留めてくださる（詩篇24・7）。それは、「日照りが続いたときの雨雲のよう」（詩篇108・21）な恵み深い慈しみ（シラ35・26）なのです。

神の憐れみの物語をイエス・キリストは簡潔に要約なさいました。「憐れみ深い人々は、幸いである、その人たちは憐れみを受ける」（マタイ5・7）と。さらに別の機会には、「あなたがたの父が憐れみ深いように、あなたがたも憐れみ深い者となりなさい」（ルカ6・36）とも仰せられました。（知識の香7）